



為石小学校の合言葉 「ためし 最高! ~地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども~」



- 楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
- 正しく めあてを しっかり守る
- たくましく めあてに向かって しっかり鍛える

学校だより

# ためし



令和7年4月30日号 文責 上久木田 雄二



## やりがいてどこから

最近の教育雑誌を見ると、社会全体の人手不足とともに、教員の不足の話題が必ず取り上げられます。おそらくどこの都道府県も同様の悩みを抱えているようです。

教員の人手不足を語るとき、必ず引き合いに出される言葉があります。

それが、「やりがい」です。

みなさんは、どのくらい「やりがい」をもって仕事をしているのでしょうか。

みなさんにとって、仕事の「やりがい」とはどんなものなのでしょうか。

私は、教育書を読むときに考えるのは、「やりがい」を形にするとすれば一体どんなものになるのかということです。

実は私には答えらしきものはありません。若い先生方に、

教職のやりがいを話してください

とお願いされることもあります。自分の経験以外に話ができない自分がいます。そのくらい、「やりがい」を伝えるのは難しいのだと感じています。

そもそも仕事は、

「やりがい」というより「生活」

そのものであり、生きるために働くという印象を私は持っています。

生活のために折り合いをつけて働くことが、人のためになっているというのが順序であるような気がしています。

人のために役立ちたいと働いた結果、生活ができていくという順序で考える方は少ないように思いますが、いかがでしょうか。

つまり、やりがいというのは、もしかしたら雇用者の論理であり、労働者の論理ではないのではないかと感じているのです。

私は「やりがい」という言葉が、労働者の口から出たときに初めて本来の意味を持つのであって、雇用者が「やりがい」を口にすれば、搾取だと苦言が生じるのだと思います。

だからこそ、「やりがい」は自分で見つけなければいけないのです。それは、子どもが「勉強する意味」を自問自答することと似ています。

HPはこちら



二次元コード読み取り 「カラー版は、ホームページをご覧ください。」

